

第9回狛江市基本計画策定第三分科会会議録

- 1 日 時 令和元年10月31日(木)午後7時～9時15分
- 2 場 所 狛江市防災センター4階402会議室
- 3 出席者 委員長 高橋 信幸 副委員長 佐藤 正志
委 員 井沢 潤 委 員 梶川 朋
委 員 周東 三和子 委 員 林 健彦
委 員 松本 すみ子
事務局 西村企画調整担当主任 池田企画調整担当主任
- 4 欠席者 副委員長 太田 ひろみ 委 員 林田 直子
- 5 議 題 1. 最終調整について
2. その他
- 6 会議概要

議題1 最終調整について

－事務局より資料の説明－

委員長 まず、「4 子どもがのびのびと育つまち」について御議論いただきたい。

周東委員 市民アンケートを指標としているが、毎年アンケートを回答する人が異なるため、それで本当に施策が進捗しているのかを測れるかどうかは疑問である。

佐藤委員 「②子どもの居場所と成長の支援」の施策の現状と課題の「発達に凸凹のある」について、発達の状況が一樣ではないということだと思うが、進んでいる進んでいない、遅れている遅れていない、等ではないため、「発達の状況が一樣でない」等の表現の方が良いのではないか。

周東委員 方向性3における「発達に遅れや偏り」という表現も同様に整理する必要がある。

井沢委員 特徴のあるはどうか。

委員長 発達に標準があるわけではない。発達障がいであったとしてもそれが人間として否定すべきものではないわけで、ある分野では非常に優秀な能力を発揮することもある。標準があり、そこから凸凹があるという考えではなく、皆が一樣ではないため、多様性のある発達の状況等が良いのではないか。

また、ここの指標だが、箱物の指標に偏り過ぎているという印象を持つ。これで②の進捗を図ることができるのかは疑問である。

事務局 例えば、虐待等に関する指標についても検討したが、そうしたときに、現状値が何であれ当然0を目標にすることになる。また、虐待の相談件数が多ければ良いというものでもなく、一方で少なければ良いというものでもない。そういったことを踏まえて指標として設定することは適していないのではないかと判断したところである。

委員長 人数で捉えようとせず、支援体制がどのように充実したのかを指標にする
と良いのではないか。相談支援を求めてきた人数ではなく、表現するのは
難しいが、量の問題ではなく、質の問題を評価しなければならないと思う。
②の方向性4に関する指標はやはりあった方が良いのではないか。

周東委員 ②の方向性4について、子どもの権利擁護の啓発、意識の醸成は誰に対し
てなのか。

事務局 子ども自身も含めた市民全体となる。

周東委員 それに分かるような表現にできないか。

委員長 「市民全体に」という言葉のみを入れても一般的に大人中心と捉えられか
ねないため、「子ども自身を含む市民全体」と記載すれば良いのではない
か。

梶川委員 ②の指標について、②では多様な居場所づくりを推進していくというこ
とである。この指標は現行計画から引き継いでいることから、分かりやすい
とは思いますが、既存のものだけではなく、新しい取組がどれだけ生まれてき
たか、小さい場所でもそれがどの程度増えたかということ測れると良い
のではないか。また、数の方が算出しやすいのは分かるが、少子化を考え
ると、率で算出した方が良いのではないか。

「①地域社会で支える子育て」の指標のファミリー・サポート・センタ
ーの事業会員数だが、現状サポート会員が圧倒的に不足している状況で、
利用会員数とサポート会員数を単純に足すだけの指標が、どの程度意味が
あるのかは疑問である。

「③妊娠・出産・育児までの切れ目のない支援」の指標の産前産後家庭
サポート事業だが、育児支援ヘルパーのことだと思うが、狛江市の育児支
援ヘルパーは要件が厳しく利用しにくい要素があると思うため、この利用
者数を増やしていくことを指標にしているのは違和感がある。

委員長 産前産後家庭サポート事業の利用者数を指標にするのであれば、この事業
をもっと使いやすいものにしていくべきである。また、突然記載があるため、
例えば、施策の現状と課題等において触れておくべきではないか。

周東委員 ①の施策の現状と課題だが、「親の子育て力の不安定さ」という言葉は分
かりにくい。

委員 長 「親の子育て力の不安定さや子育てによる」という言葉がなくても伝わる。
「孤立した環境による子育てが、親の不安・負担感を増大させ、誰も気づかないうちに虐待に向かってしまうことがある」とする。

林 委員 「④学校教育の充実」の方向性1について、「狛江らしい教育」とあるが狛江らしい教育とは何であるか注釈を入れた方が良いのではないか。

委員 長 狛江でやるから狛江らしい教育ではない。例えば、狛江市にいる様々な才能を持っている人材を活用して、学校教育に協力してもらうことや、地産地消で給食をつくること、狛江の歴史や遺跡を勉強する授業等である。言いたいのは、狛江だからできる教育である。

佐藤委員 趣旨としては、狛江の地域の特色を活かす、地域の人材を活かす、地域の教材を活かすということである。

事務局 地域の資源を活用した狛江らしい教育、と文章を補足するのはどうか。

委員 長 狛江独自の資源や人材、歴史を活用した狛江らしい教育でも良いかと思う。

佐藤委員 教育資源という言葉には歴史や人材も入るため、狛江の持つ教育資源を活かした狛江らしい教育で良いのではないか。

梶川委員 1点確認だが、②について、当初、子どもと若者を併記していたが、若者を別のところで整理するという議論だったと思う。どのように整理されたのか。

事務局 若者施策については、基本的に「5 いつまでも健やかに暮らせるまち」の「①地域共生社会づくりの推進」等をはじめとした各所に含めている。若者を項目立てするというよりは、例えば、地域共生社会の中で全ての人が生き生きと暮らしていけるという中で表現している。

佐藤委員 ④の指標について、方向性3の安心・安全な学校生活に係る指標がないため、検討をお願いします。

事務局 満足型学級出現率の指標を広義で捉えることでの整理もできるかと思う。

委員 長 その他意見等なければ、次に「5 いつまでも健やかに暮らせるまち」について御議論いただきたい。

松本委員 「③高齢者の支援」の指標だが、高齢者の就労というのは非常に進んでいるため、60歳以上あるいは65歳以上の市民が何らかの仕事をやっている割合等でも良いかと思う。

委員 長 指標に65歳健康寿命というものがあるが、狛江市は東京都平均と比較してどうか。

松本委員 高いはずである。全国平均よりも高いと思う。

委員 長 「①地域共生社会づくりの推進」の指標のコミュニティソーシャルワーカーの配置地区数だが、地区ではなく人数ではだめなのか。3つの日常生活

圏域に1人ずつ配置するという目標では広がりが無い。他自治体では、1地区に何人も配置している。

佐藤委員 ③の施策の現状と課題について、「高齢化率の高い団地やその近隣」とあるが、あえて団地という言葉を使用せずに、「高齢化率の高い地域」で良いのではないか。

事務局 こまほっとシルバー相談室の開設を受けての記述であったが、修正させていただく。

林委員 コミュニティソーシャルワーカーという言葉について、一般的に分からないと思うため、注釈を入れた方が良く思う。

井沢委員 「④障がい者への支援」の目指す姿が、地域の中で暮らし続けるということであるため、その指標としては、地域移行支援事業だけではなく、地域定着支援事業も含めて捉えるべきではないか。定着支援というのは地域で暮らししていくための支援である。

委員長 そういう意味で言うと、地域移行支援事業の利用者数という施設から移行した人数を評価するのではなく、移行して定着した人数を評価した方が良く思う。

井沢委員 ただし、まずは地域定着支援事業の支援内容を確認した上で検討する必要がある。

周東委員 「②健康づくりの推進」の指標に自殺死亡率があるが、違和感がある。

事務局 方向性2に該当する部分である。

委員長 自殺死亡率を採用することは良く思うが、関連する主な個別計画に自殺対策計画がないため、追記すべきである。

事務局 現在策定作業中であるため記載していなかったが、最終的には記載させていただく。

委員長 自殺予防の推進をするのは今では自治体の仕事となった。そういう意味では馴染みがなかったかもしれない。自殺の背景は、病気や経済的な問題、社会的な関わりの問題等多岐にわたるが、それらを背景にした心の健康の問題と深く関わるわけである。そういう意味では自殺死亡率が減っていくという指標は問題ないと思うが、そのためにも関連する主な個別計画として記載しておくべきである。

その他意見等なければ、次に「6 生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」について御議論いただきたい。

ここについては、林委員から大きな修正案が本日提出されているが、まずは一通りの議論を行った後、説明いただきたいと思う。

「②芸術文化・スポーツの振興」の指標の週1回以上スポーツをしている市民の割合だが、スポーツではなく、運動の方が良いのではないか。自

分が行っているのが運動なのかスポーツなのか判断がつかない人もいると思う。例えば、競歩はやっていないが、散歩は1日1時間心がけているというのは運動としてカウントしても良いと思う。スポーツに限定してしまうとスポーツ競技しかイメージできない。健康づくりとの関連もあることから整理をお願いする。

林 委員 ②の施策の現状と課題について、「仲間づくりという視点」とあるが、1人で行う場合もあるため、健康づくりという言葉も入れた方が良いのではないか。方向性4の「体力の向上や生きがいくづくり」というところも同様である。

事務局 以前の議論を踏まえ、ここは健康づくりとの関連があり、そこもつながっている側面もあるが、あえてライフステージに応じて体力の向上を行っていく、としている。身体健康づくり自体は「5 いつまでも健やかに暮らせるまち」の「②健康づくり」で謳っており、そこにつながる形で体力の向上、生きがいくづくりにつながっていくという整理としている。

委員 長 そのような整理とする。

林 委員 「③歴史への理解と継承」の方向性1が「歴史・文化財の保存・継承」となっているが、歴史の継承は分かるが、保存は違和感がある。一方で、歴史遺産とすると継承が馴染まない。

事務局 歴史は継承で、文化財は保存ということか。

林 委員 そうであれば、歴史の継承と文化財の保存はどうか。

委員 長 方向性1は「歴史の継承と文化財の保存」とする。

その他意見等なければ、本日の追加資料について林委員から説明をお願いする。

林 委員 資料は、第2期粕江市教育振興基本計画素案と現行の後期基本計画における公民館と図書館の部分抜粋したものとなる。後期基本計画では、公民館事業と図書館事業を分けた4章立てとなっている。具体的には「①地域における学びの充実」の構成についての提案となる。

まず、方向性2だが、ここは少なくとも公民館事業と図書館事業を分けていただきたい。施策の現状と課題も公民館と図書館について分けて記載されている。また、施策の現状と課題では、学びの支援と地域への還元、成果の活用という要素を一緒に記載しているため、「各種団体や大学、民間企業等との連携」と「情報を効果的に発信していくことで、市民の学びを支援する」というところを、更に分けて、新方向性4にこの部分と、学びを活かす機会の充実をあわせるという形で一本化するのはいかがでしょうか。あるいはそれぞれをさらに分けて5つの方向性にしても良いと思う。そうすると、施策の現状と課題の4つ目を分けても良いと思う。

図書館と公民館を分けていただきたいというのは、図書館については市民アンケートでも、非常に関心が高い単語であること、また、他の計画や現行の後期基本計画でも具体的に記載があるが、今回の計画ではあまり具体性がないように感じたためである。施策の現状と課題でも、利用者から蔵書数が少ない、閲覧できる場所が少ないという意見が寄せられていることから、それに対応する方向性を入れるべきである。

また、新方向性案3では、例えば、スペースについては、ゆったりとしたスペースのある滞在型図書館、本のある暮らしを楽しむ憩いの場を目指し、利用促進を図ります、あるいは資料については、ワクワクする資料と出会える場を目指して資料の充実を図ります、と記載したように修正できないか。更に、施策の現状と課題の1つ目だが、「子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい環境の整備が求められています。」と記載があるため、それに対応するものとして、子どもから高齢者、外国籍市民まできめ細かいサービスを行い、誰にとっても利用しやすい図書館を目指します、という形で修正できないか。

また、現行の後期基本計画の方向性においても子どもが読書に親しむための環境整備とあるため、本計画でも学校図書館との連携という言葉を入れてはどうか。

公民館については、分割した案を提示したが、専門ではないためお任せする。

最後に、以上を踏まえて、目指す姿について、「誰もが生涯を通じて学ぶことができるよう、自主的な活動の機会や場の充実が図られ」とあるが、この後に、「情報、資料の的確な提供を受けられ」というのを入れる形で修正できないか。

委員長 今の説明について、質問や意見等あるか。

佐藤委員 基本計画自体をどう捉えるかという問題に関わってくる提案である。図書館の課題としてとても大切なことであることは理解できる。一方で、例えば、図書館のスペースの問題、あるいはワクワクする資料等、基本計画にそこまで書き込むべきであるかは疑問である。他の施策と整合がとれなくなってしまうのではないか。

周東委員 佐藤委員からも意見があったが、図書館のみ詳細に記載すると他との整合がとれなくなると思う。図書館が果たすべき役割等、取り入れられるところもあるかと思う。

松本委員 ここを詳細に記載するのであれば、他のところも詳細に記載した方が良いところはたくさんある。基本計画はあくまで指針を示すものということで

分科会として調整してきたため、林委員からの提案は理解できるところはあるが、どこまで取り入れられるかは難しいところである。

梶川委員 もう少し早い段階で、今回の提案を受けることができたのであれば、うまく反映できる部分もあったと思う。「6 生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」を深く議論する回があったため、その際にこのような話ができれば良かったと思う。

井沢委員 基本計画というのは市の大きい軸や流れであるため、割とざっくりとした表現となる。そのため、基本計画では、具体的な表現は適していないという印象を私も持っている。今までも具体的な表現は避けており、大きな方向性として考えてきた。この大きな基本計画の流れに則った上で、その先は個別計画や行政で進めていくことになるかと思う。林委員からの提案は、なるほどと思うところもあったが、基本計画の中にここまで盛り込むのは適していないのではないかと思う。

委員 長 各委員から意見があったように、図書館や公民館のことだけを第9回目の分科会でここまで踏み込んだ形に修正するというのは大きな変更であるため、他との整合の問題や今まで議論で積み重ねてきたことを壊してしまうことになりかねない。ただし、中身としては林委員の提案は皆理解し、納得いただいていると思う。最終的には分科会委員長の私と事務局との調整に一任いただければと思う。取り入れられるところについては、今までの議論の趣旨に影響が出ない範囲で調整させていただく。今回の提案自体は有意義なことであるが、具体的な内容はやはり個別計画や図書館の建設計画等で議論してもらえると良いと思う。基本計画において大きな方向性を示し、その方向性のもとで個別計画づくりを進めていくという流れである。

佐藤委員 現在、第3期教育振興基本計画の検討が始まっているため、その議論の中で先程のような提案があったということ共有していただけると良い。

議題2 その他

—各委員より一言あいさつ—

委員 長 その他特に意見等なければ、第9回狛江市基本計画策定第三分科会を終了とする。